



第9講

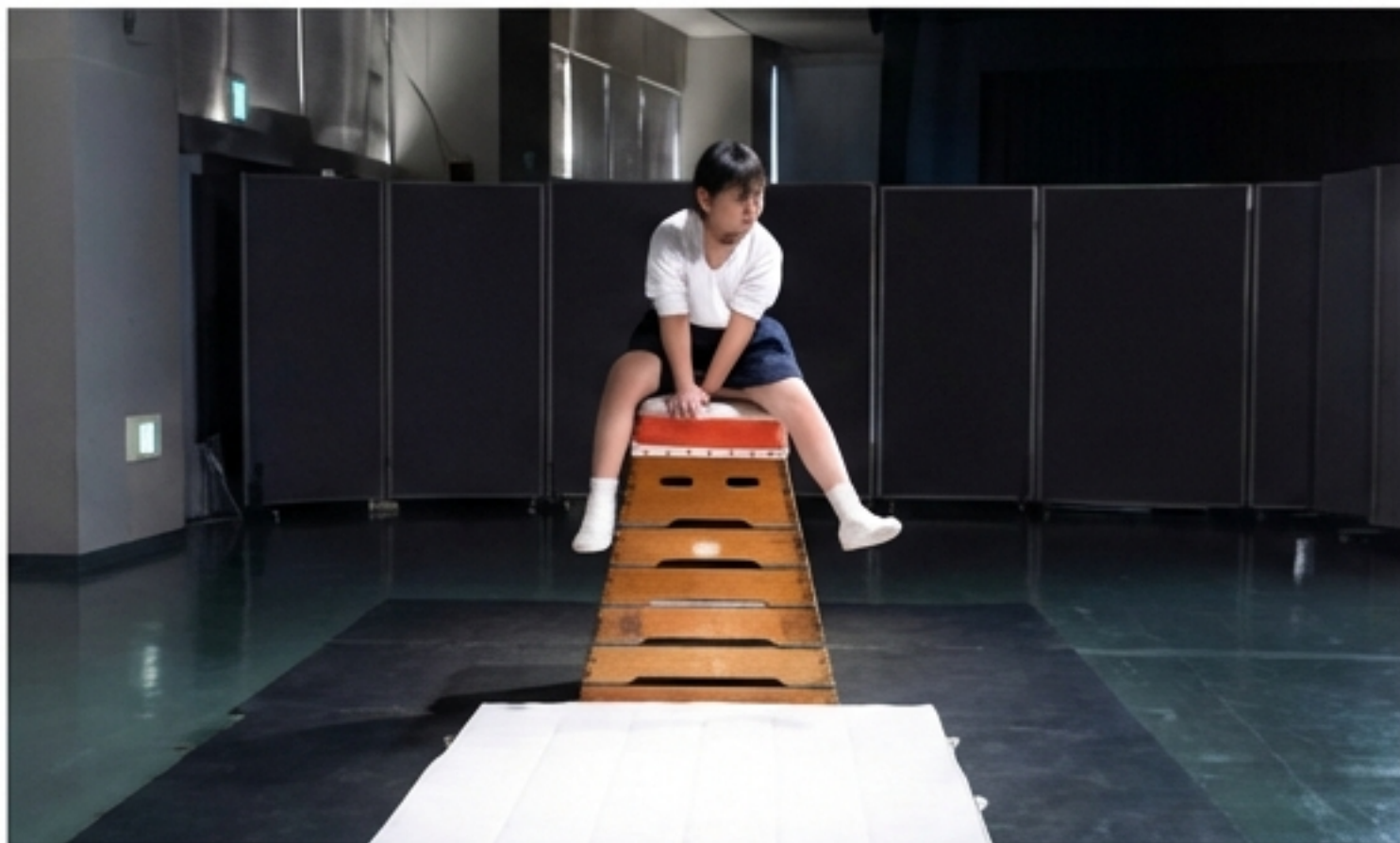
複眼的思考法により 主体的な学習を伸ばす

小学校体育（跳び箱）における
多視点映像教材の開発

本研究の目的：単なる指導から、児童の「主体的な
学習態度」を育成するツールへの転換。

主体的な学習態度を育てる

The Vision



「主体的な学習態度」とは

- 児童が自ら跳ぶことができるように工夫する
- 課題に向けて積極的に取り組む態度

The Shift

従来：教師の模範をただ模倣する（受動的）

本研究：映像ツールで自ら分析し、解決策を見つける（能動的）

Pedagogical Shift



従来の指導法の限界



連続写真

動きの「流れ」やニュアンスが伝わりにくい。



教師の模範演技

速度が速すぎて、児童が細かいポイントを瞬時に捉えきれない。

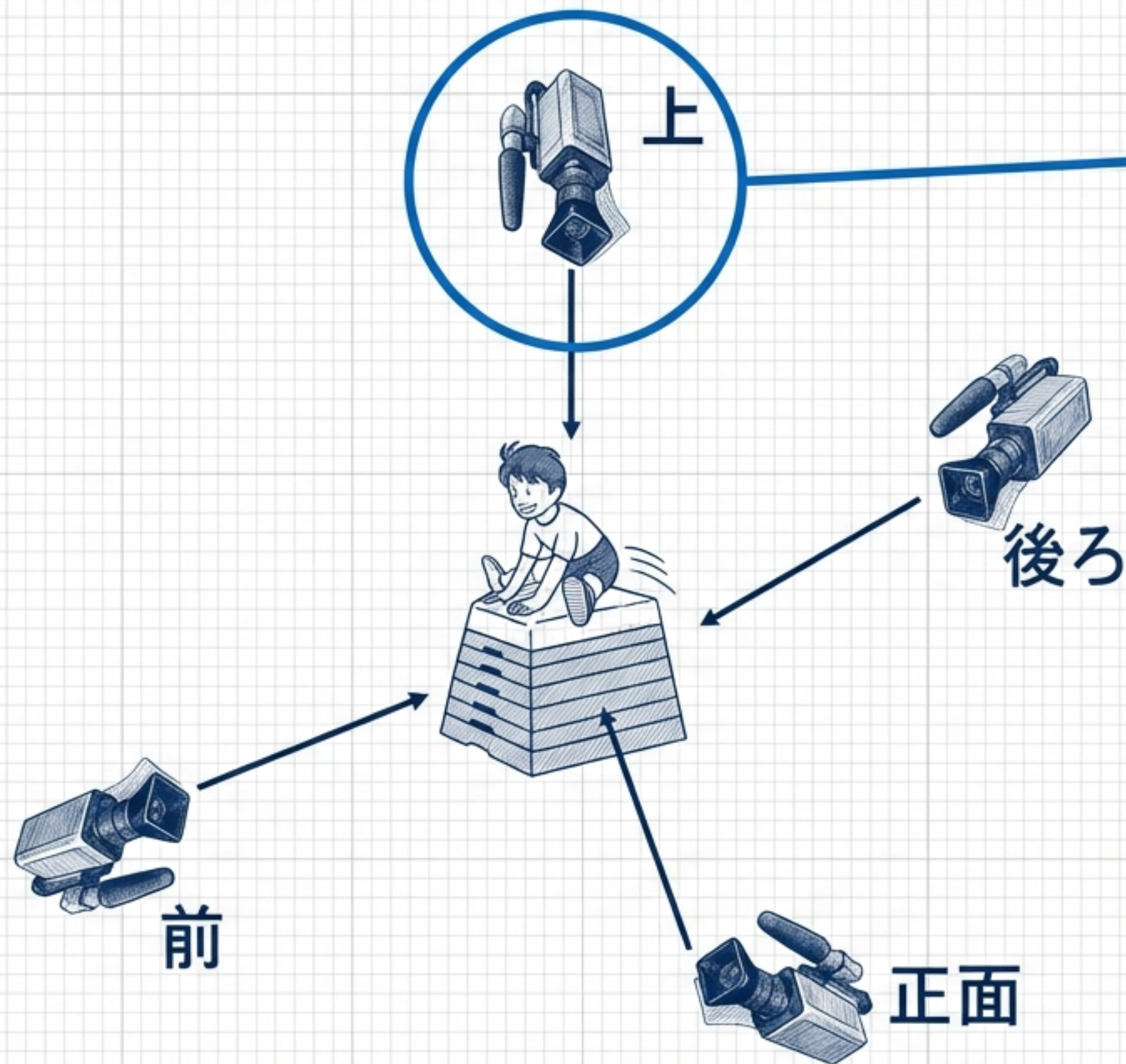


単一視点

一方向からでは、死角になる技術的エラーが見落とされる。

解決策：映像教材による「一時停止」「スロー再生」「視点の多重化」

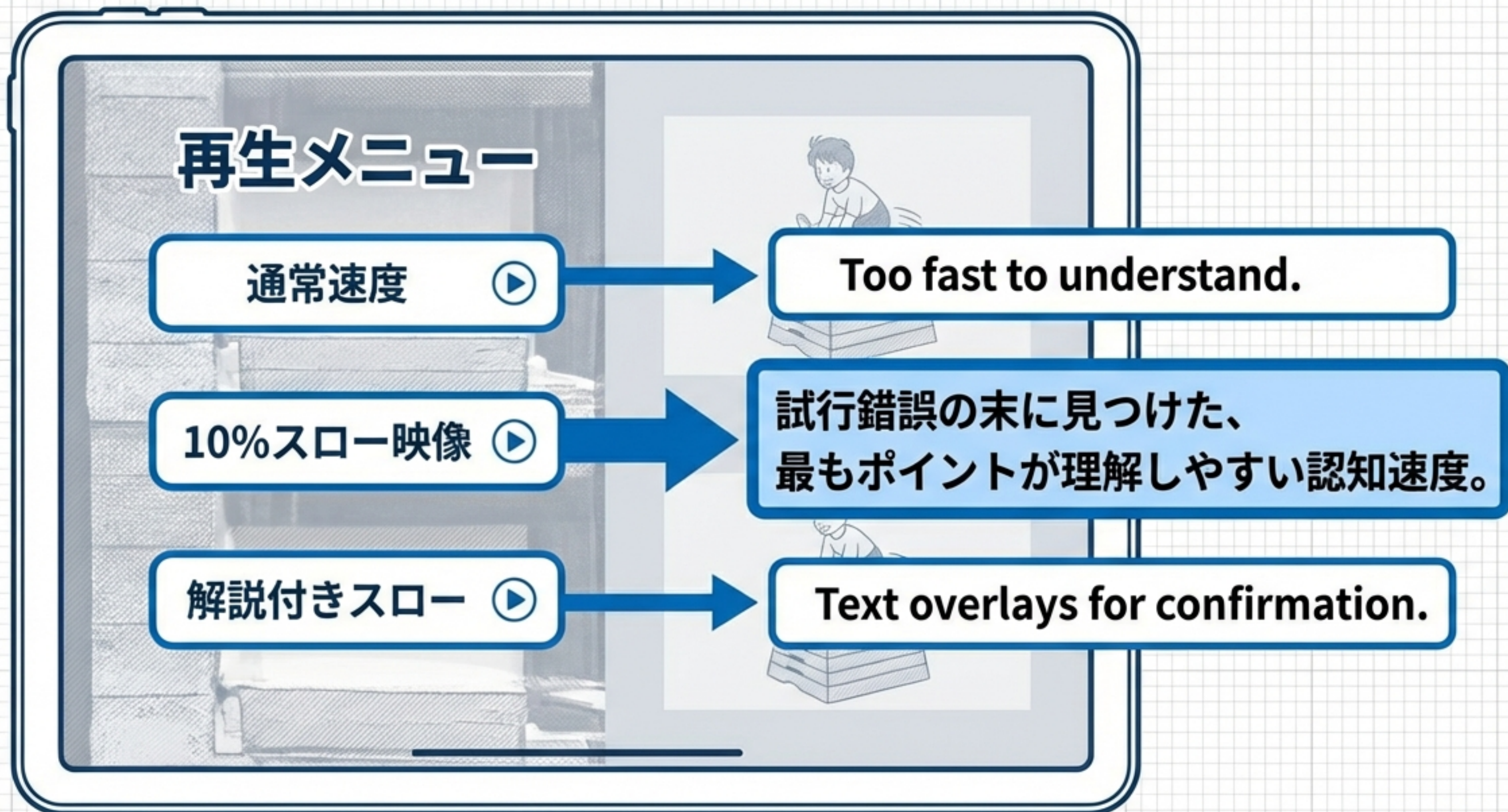
多視点とは：4方向からの同時撮影



【革新点：俯瞰視点（上）】

通常は見ることはできない視点。
「踏切の瞬間の姿勢」や「腕の突きはなし」を客観視するために不可欠。

児童が自ら操作するインターフェース



4画面映像：全方位のポイントを捉える

斜め (Oblique)



正面 (Front)



前 (Forward)



後ろ (Back)



死角をなくす**同時再生レイアウト**。
単一カメラでは隠れてしまう身体の細
身体の細部を、一度に可視化する。

マルチクリップ：視点の最適化



助走
(Run-up)

踏切
(Take-off)

着手・姿勢
(Form)

着地
(Landing)

後ろ
(Back View)

正面
(Front View)

斜め
(Oblique)

前
(Forward)

4画面は情報量が多すぎるため、動きのフェーズに合わせて「最適な視点」を自動的に切り替える編集手法。

比較映像：違いを可視化する

A: うまくできる例

踏切位置
(Take-off position)

着手の位置
手の突きはなし
(Push-off)

B: 課題がある例

「良い例」と「悪い例」を並べることで、児童が自分のエラー（踏切位置や手のつき方）を自己診断できる。

撮影の舞台裏：俯瞰視点の確保



課題

跳び箱の真上（俯瞰）からの撮影は設置が困難。

解決策

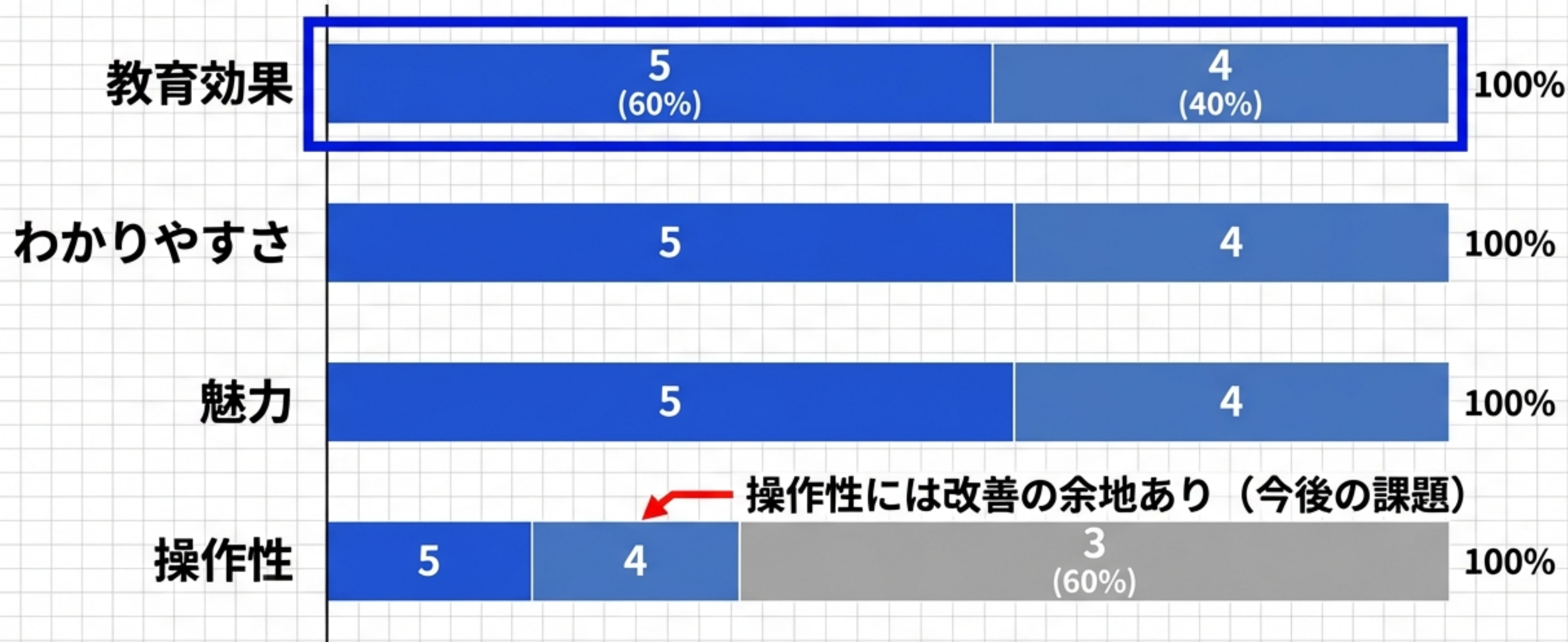
- スポーツ科学センター：天井固定器具
- 小学校体育館：ステージ上のキャットウォーク活用

機材

Sony HD Camcorders (SxS Memory) x 4台
デジタル記録による編集ワークフローの効率化。

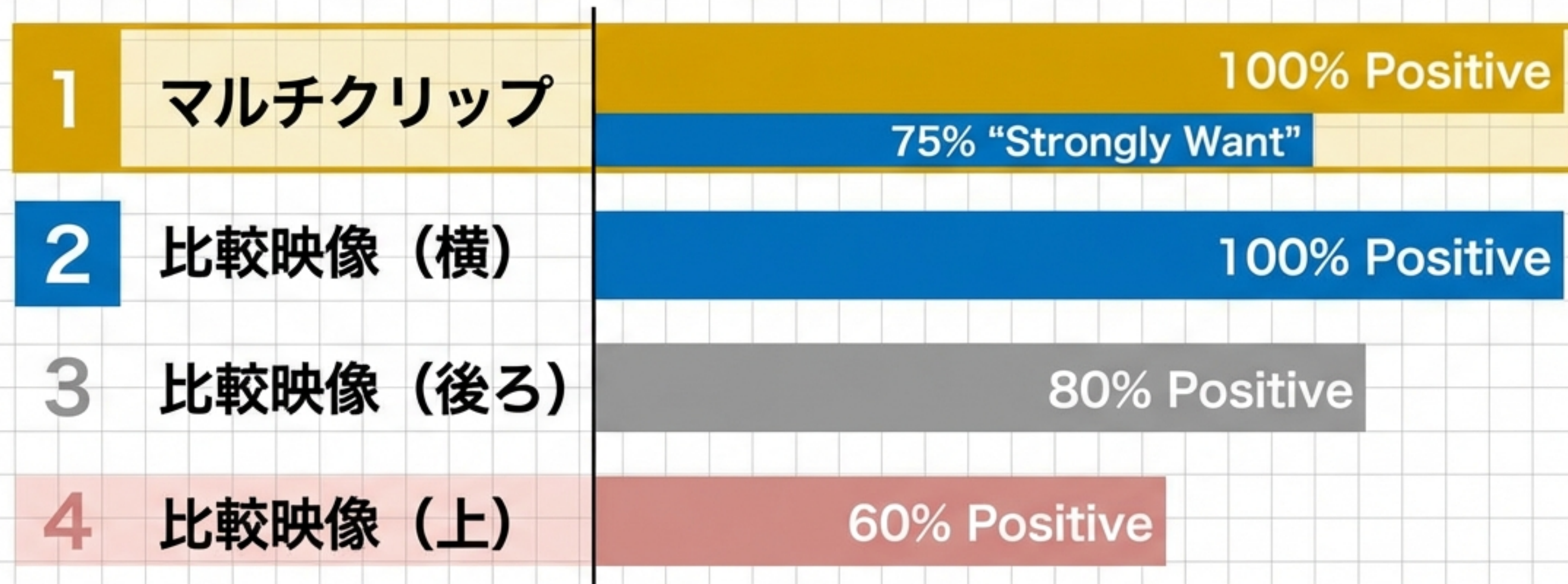
評価委員会による検証結果

対象：体育専門教員6名 + 指導主事1名



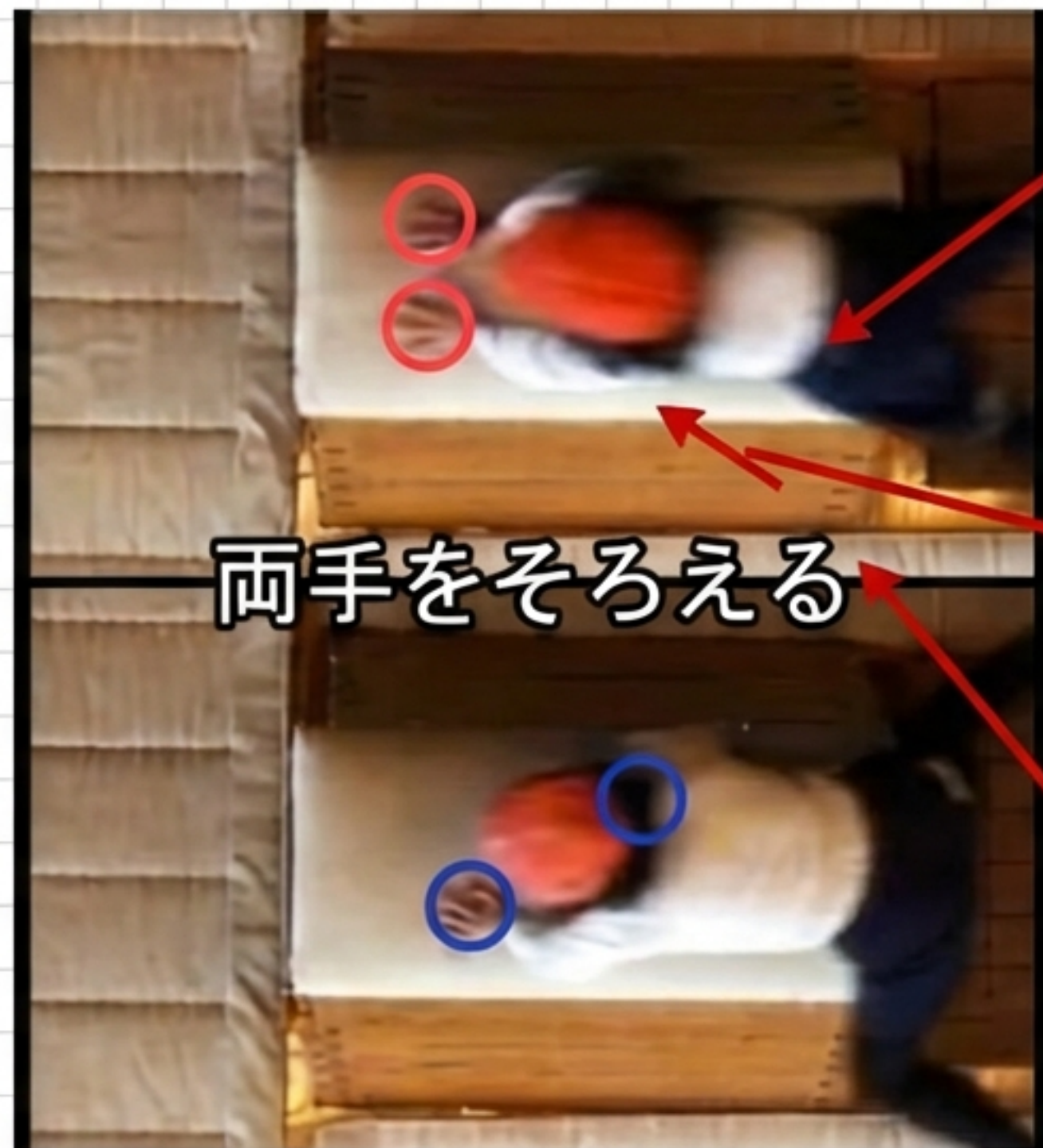
■ 5: 非常に良い / 4: 良い ■ 3: 普通

授業への導入意向：どの映像が使えるか？



「マルチクリップ」と「横からの比較」が、現場の教員にとって最も即効性のあるツールであると評価された。

専門家からの改善フィードバック



両手をそろえる

タイミング

マルチクリップの切り替えは、着手（斜め）から突き放し（横）への移行をスムーズにすべき。

比較ポイント

後ろからの映像は、足の開き具合よりも「腰の位置」の比較に有効である。

教員支援

「示範（模範演技）」ができない教員にとって、この映像は強力な指導の助けとなる。



本講義の学習到達目標

- ✓ **主体的な学習態度を定義できる**
(例：児童が自ら課題を見つけ、修正しようとする姿勢)
- ✓ **多視点教材の活用法を説明できる**
(例：比較映像を用いた自己分析の指導)
- ✓ **具体的な授業活用事例を作成できる**

「課題を持つ」ことができる児童へ



ゴールは、跳び箱を跳べること
だけではない。

映像を通して自ら課題を見つけ、
仲間と励まし合い、
解決する力を育むこと。

Next Step: 他の教員も作成可能なマニュアルの整備と普及



岐阜女子大学

OIFU WOMEN'S

NotebookLM